
健康・医療クラウドWG 第7回総会報告

2013年12月16日(月)

第1版

健康・医療クラウドWG 主査

本日の報告事項

- 1) 3カ年活動
- 2) ホワイトペーパー
 - ーサービス機能編
 - ーシステム基盤編
- 3) 第4事業年度の進め方
- 4) まとめ

1) 活動報告

- **2011～2012事業年度**
 - **目標:「健康・医療クラウド」に必要とされる諸条件の明確化、プロトタイプによる実証を通じ、何がユーザのQoL向上に資するかを検証。**
 - **諸条件を明確化し、「機能要件」「システム基盤の動向」の2つのホワイトペーパーとしてまとめ、JCCホームページから公開した。**
 - **プロトタイプ構築、実証までは達成できず。**
- **2013事業年度**
 - **2事業年度の知見を以って各社毎に健康・医療領域での事業化の検討に充てる期間とし、WG、SWGの活動は見送り。**
 - **WG主査は、所属各社による展示会・講演会などでのホワイトペーパー流用等の相談窓口等の機能を担った。**
 - **現在のWGメンバ(体制)での活動は、各社様の多大なるご協力のもと、ホワイトペーパー公開という一定の成果を得たことから、次事業年度は、新たなテーマ設定のもと1月～3月にかけて活動を明確にしていく。**

2) ホワイトペーパー

<構成>

健康・医療クラウドWG ホワイトペーパー

サービス機能編

「健康・医療クラウドの機能要件(サービス編)」

高齢者をターゲットとした健康サービスモデルを提案し、サービスを継続してもらうための継続メソッドなどを定義するとともに、本サービスモデルを実現するための課題を抽出し、記載。

システム基盤編

「健康・医療領域におけるシステム基盤の動向」

国内外の健康・医療領域に関する国策や医療情報システムの動向を体系的に整理。健康サービス提供基盤における課題に対する方向性と提言を記載。

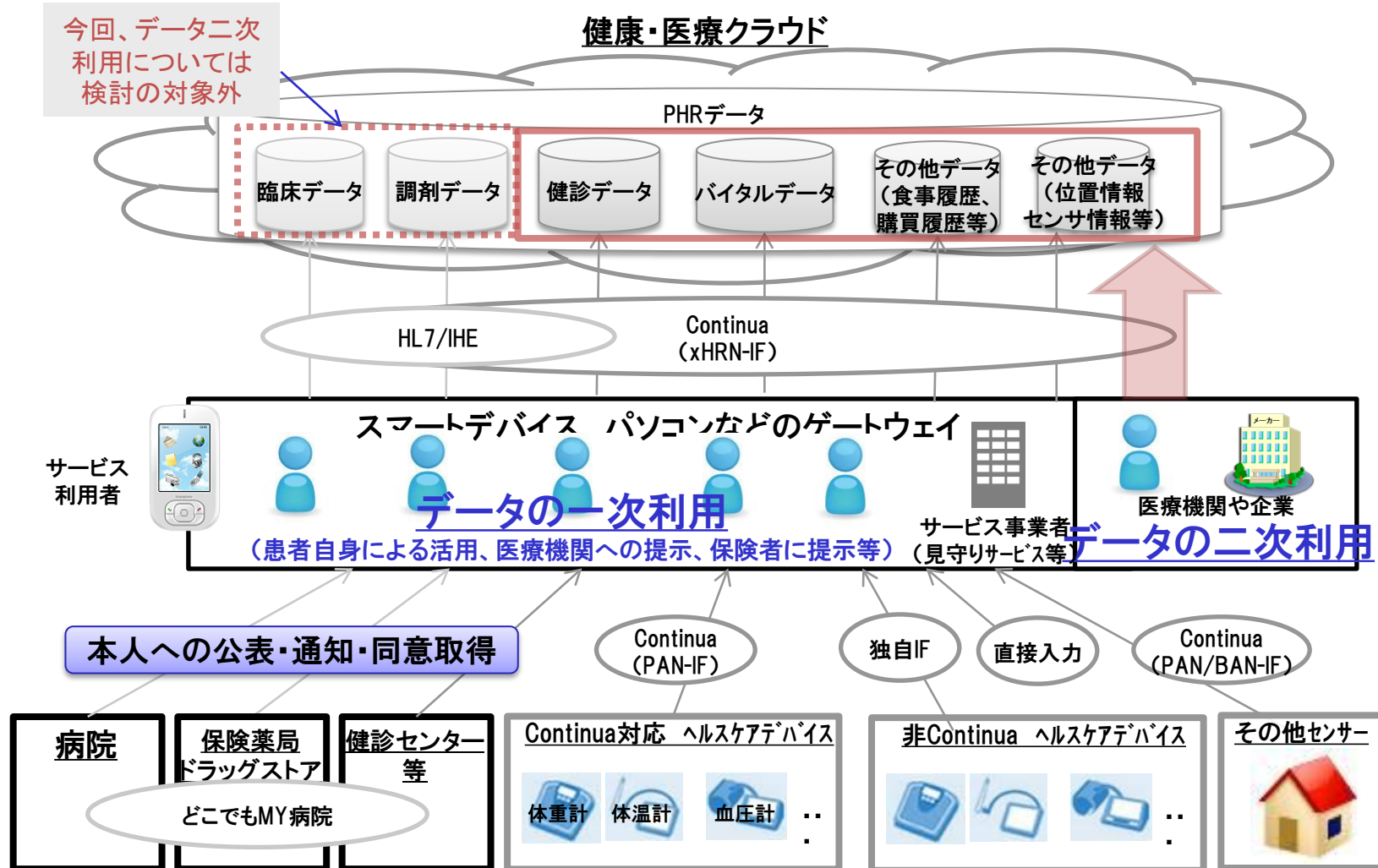
2) サービス機能編サマリ

- ヘルスケア事業の成功要因として、特に「**継続性**」が重要である。サービス要素を機能要素にブレイクダウンし「**継続性**」の観点で12要素に整理した。

No	要素	説明
1	交流	同じ境遇の者がつながりを持つ
2	競争	歩いた距離や歩数等を蓄積、比較出来る
3	強調	仲間同士での成功体験や気づきを共有
4	自動記録	バイタルデータ等をContinuaで自動記録
5	目標設定	本人に合った適切な目標設定
6	評価	自己評価や第三者評価を行う仕組み
7	ヘルスナレッジ	運動や病気予防などの知識
8	ヘルスエンタテイメント	ゲーム要素により作業に楽しみを与える
9	ビジュアルリング	記録を視覚的、直感的に確認出来る
10	インセンティブ	ポイントやクーポンによりモチベーション向上
11	エンカレッジ	家族や仲間などからの励まし
12	遠隔フェースtoフェース	相手の顔が見えることでの安心感

2) システム基盤編サマリ

- 健康・医療クラウド概念図を整理し、システム基盤など5項目について、方向性と提言をまとめた



2)システム基盤編サマリ

	課題	方向性と提言
1	システム基盤	個人主体での慢性疾患予防やPHRの可視化や統計・分析した結果を個人に還元するサービス（データ二次利用）が進むと考えられ、健診情報やセンサ情報など様々なデータを扱う必要がある。バイタルセンサーからゲートウェイまで、及びゲートウェイからクラウド使うべき標準を決めている Continuaを中心の基盤がベース となってくると考えられる。
2	データ標準化	データの2次利用などを考えた場合、 ビッグデータとして横串に集計できる必要があり、既に医療システムで標準となっているHL7をベースに進める事がよい と考えられる。
3	ヘルスデバイスなど機器間連携	現状は独自プロトコルでデータを囲いこむ垂直統合モデルが多いが、 健康データの主体は個人であることを鑑みると、ある程度標準化された機器やスマートデバイスの中から個人が組み合わせを選択できる ようになることが期待される。

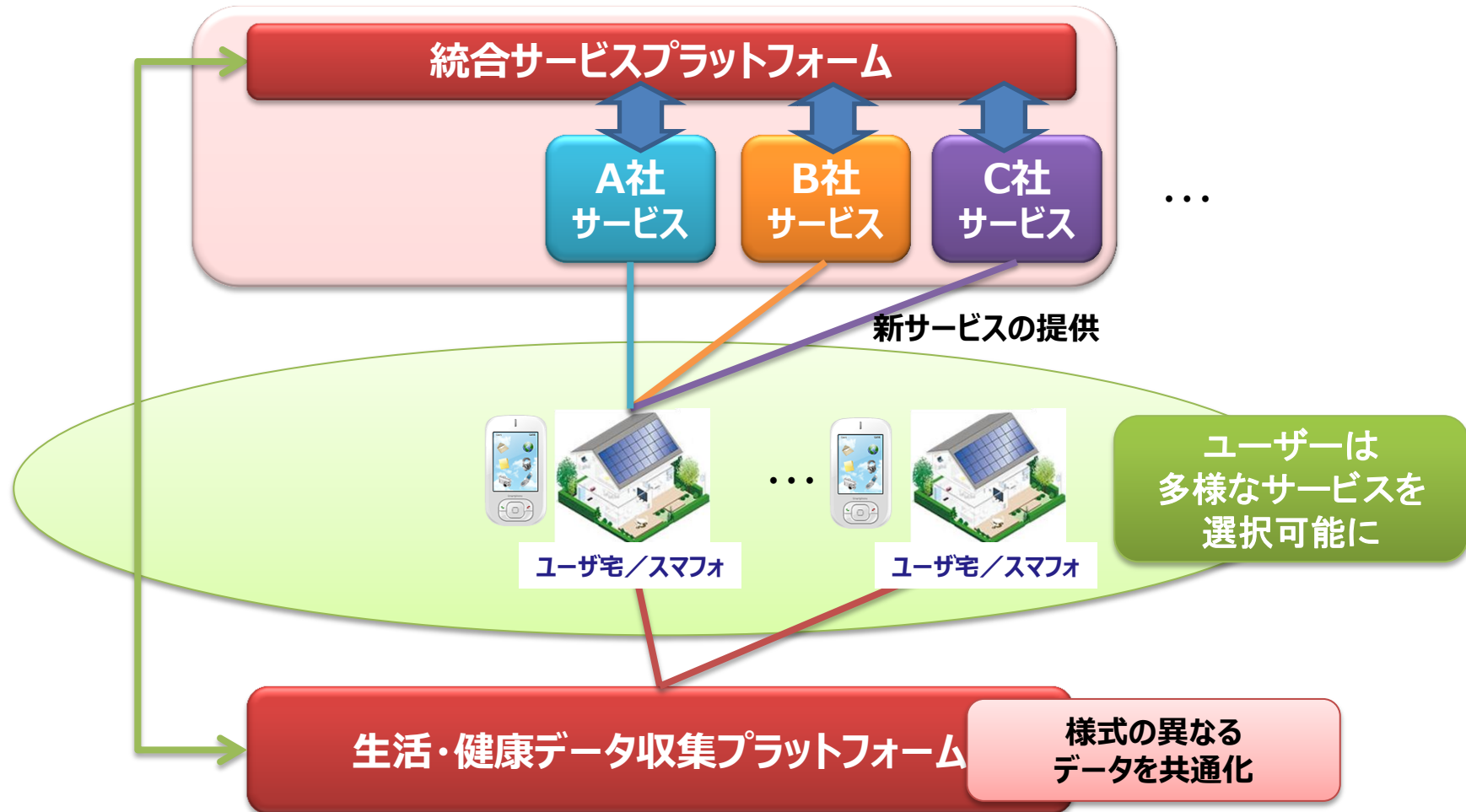
2)システム基盤編サマリ

	課題	方向性と提言
4	セキュリティ	関係省庁から、守るべきセキュリティのガイドラインの整備は進んできており、遵守すべき道筋は示されてある状況ではあるが、クラウドやデバイス技術の進歩が早いために、ガイドラインに記載がされていない領域も存在し得る。健康・医療以外の先進事例や海外動向も注視する必要がある。
5	データの二次利用	健康領域の研究開発発展に貢献できるだけでなく、社会経済的な利益を得られる可能性も期待されることから、諸外国のように匿名性の基準・ガイドラインを、国（又は第三者機関）として早期に策定し、企業がデータの二次利用をより適切・効率的にできるよう、匿名化手法、評価手法、リスク評価などの基準やフレームワークが明確になることを関係省庁に期待する。

3)第4事業年度の進め方

3)-1. 第4事業年度の進め方(新テーマ)

- 1)テーマ:「生活・健康データ利活用」
- 2)生活・健康データ収集プラットフォーム、サービスプラットフォームを検討
- 3)効果測定が必要とされた場合は実証実験も視野にいれる



3)-1. 第4事業年度の進め方(スケジュール)

2013	JCC 2014年度									
3Q	1Q			2Q			3Q			
12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
<p>◆第7回JCC総会 1)3年間の活動サマリ、現体制解散 2)新テーマのご紹介</p>										
<p>座組み調整 テーマ深掘り 活動計画</p>				◆継続判断			◆総会 ◆継続判断			
<p>個別に各社様と調整させて 頂きながら、検討を進める。</p>				実質活動						

4) まとめ

- **2011～2013事業年度**
 - 健康・医療クラウドの諸条件を明確化し、「機能要件」「システム基盤の動向」の2つのホワイトペーパーとしてまとめ、JCCホームページから公開したが、プロトタイプ構築、実証までは達成できず。
 - 各社様の多大なるご協力のもと、ホワイトペーパー公開という一定の成果を得たことから、次事業年度より新たなテーマを設定する。
 - WGメンバーの皆さま、本当にありがとうございました。
- **2014事業年度**
 - 新たなテーマ「生活・健康データの利活用」を設定し、データ収集およびサービスのためのプラットフォームの検討を行う。必要に応じて実証を目指す。
 - 本総会后～3月まで、参画をご希望される各社様と個別に協議させていただき、役割分担、座組みや実施内容を検討する。
 - 4月、7月に継続判断ポイントを設ける。

4) 連絡先

rd-mng@kddi.com

(担当: 松本、沖本)

**ご連絡をお待ちしております。
引き続き、よろしくお願いいたします。**

参考

メンバー (2013/12/2時点)

全体監修

国際医療福祉大学大学院 武藤正樹 教授

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 北岡有喜 医療情報部長

株式会社 IDCフロンティア
株式会社 インテージ
株式会社 インターネットイニシアティブ
株式会社 インテック
株式会社 STNet
株式会社 NTTデータ
株式会社 NTTドコモ
オムロンヘルスケア株式会社
カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
関電システムソリューションズ株式会社
ココカラファイン
三洋電機株式会社
シャープ株式会社
新日鉄ソリューションズ株式会社
セイコーエプソン株式会社
ソフトバンクテレコム株式会社
株式会社 タニタヘルスリンク
株式会社 東芝
東芝情報システム株式会社
デロイトトーマツコンサルティング株式会社

株式会社日本医療事務センター
日本電気株式会社
NESTA JAPAN
ネットワンシステムズ株式会社
株式会社 博報堂
パナソニック株式会社
ビオスピクス株式会社
東日本メディコム株式会社
株式会社 日立ソリューションズ
株式会社 日立コンサルティング
株式会社 富士キメラ総研
富士通 株式会社
プライムワークス株式会社
株式会社 ベネフィット・ワン
日本マイクロソフト株式会社
三菱商事株式会社
三菱電機株式会社
株式会社 メディアネットワークス
雪印メグミルク株式会社
株式会社メタキューブ
株式会社 リコー
ケアプロ株式会社

日本事務器株式会社
ミテネインターネット株式会社
特定非営利活動法人
日本サステイナブル・コミュニティ・センター

独立行政法人 情報通信研究機構
鹿児島大学
東京医科大学病院
東京工科大学
名古屋大学
特定非営利活動法人
日本健康増進施設協会
山口大学

KDDI株式会社(幹事会社)
株式会社メディエイド

46企業、10団体
(2012年12月以降1企業脱退)